



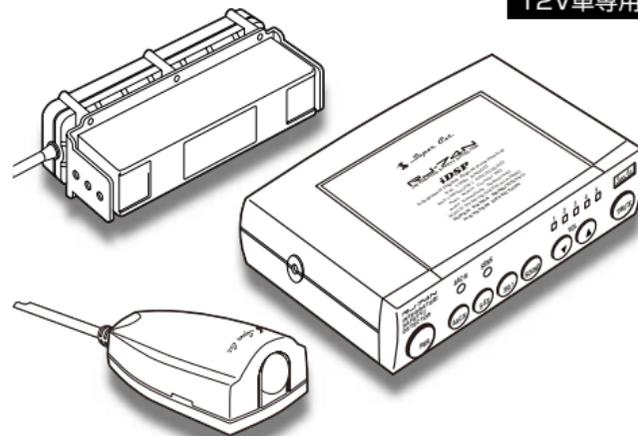
ワイヤレス式超高感度セパレートレーダー探知機

# RJ-74N

## 取扱説明書

このたびは、スーパーキャットのレーダー探知機をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本機は、取締りレーダー波の存在を前もってお知らせする受信機です。

12V車専用



### 目次

はじめに	安全上のご注意 .....	2
	主な特長 .....	6
	ご使用にあたって .....	7
	各部の名称と働き .....	8
使いかた	音量／警報音／受信感度を設定する ...	10
	AAC-IVシステムの使いかた .....	13
	ASS機能について .....	16
	iDSPについて .....	17
	・Nシステム検知について .....	20
	取締りレーダー波受信時の警報について ...	22
	350.1受信機能の使いかた .....	24
	便利な機能について .....	27
その他	受信しにくい場合 .....	28
	取締りのミニ知識 .....	29
	故障かな?と思ったら .....	31
	アフターサービスについて .....	35
	仕様 .....	35

### ☒注意

この取扱説明書をよくお読みのうえ、安全運転のよきパートナーとして正しくお使いください。  
 なお、お読みになられたあとも、いつでも見られる場所に大切に保管してください。

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに記載された注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用するかたへの危害や損害を未然に防止するためのものです。安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。また、注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、次の表示で区分し、説明しています。

**⚠ 警告**：この表示は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

**⚠ 注意**：この表示は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

## 絵表示について

- ⚠ この記号は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
- 🚫 この記号は、してはいけない「禁止」内容です。
- ❗ この記号は、必ず実行していただく「強制」内容です。

### ⚠ 警告

-  水をつけたり、水をかけない。また、ぬれた手で操作しない…火災や感電、故障の原因となります。
-  穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない…感電や故障の原因となります。

### ⚠ 警告

-  コードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しない。また、コードがいたんだら使用しない…感電やショートによる発火の原因となるばかりでなく、機器が正常に働きません。
-  指定以外のヒューズは使用しない…指定以外のヒューズを使用すると、異常過熱や発火の原因となります。ヒューズは必ず同一定格のものと交換してください。
- ❗ コードの接続は、 $\oplus$   $\ominus$ の極性をよく確かめて、取付説明書にしたがって確実にを行う…異常過熱や発火・故障の原因となります。
-  表示された電源電圧以外では使用しない…火災や感電、故障の原因となります。本機は、12Vマイナスアース車専用です。
-  運転中は絶対に操作しない…わき見運転は重大事故の原因となります。また、設定は停車中に、パーキングブレーキを確実にかけた状態で行ってください。
-  穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない…感電や故障の原因となります。
-  機器本体および付属品を改造しない…火災や感電、故障の原因となります。

⊠警告

- 

操作ユニットの取り付けは、運転や視界の妨げにならない場所、また、自動車の機能（ブレーキ、ハンドルなど）の妨げにならない場所に取り付ける…誤った取り付けは、交通事故の原因となります。
- 

操作ユニットを助手席エアバッグの近くに取り付けたり、配線をしない…万一のとき、動作したエアバッグで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。また、コード類が妨げとなり、エアバッグが正常に動作しないことがあります。
- 

煙が出ている、変な臭いがするなど、異常な状態のまま使用しない…発火の恐れがあります。すぐに使用を中止し、販売店に修理をご依頼ください。
- 

万一、キャビネットを破損した場合は、すぐに使用を中止する…そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因となります。
- 

警報したときに慌ててブレーキをかけたりしない…走行中に急ブレーキをかけたりすると大変危険です。
- 

サービスマン以外の方は、絶対に機器本体および付属品を分解したり、修理しない…感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。

⊠注意

- 

取り付けは確実に…落ちたりして、ケガの原因となります。
- 

エアコンやヒーターなどの温風の吹き出し口の近くに操作ユニットを取り付けない…異常過熱して、故障や発火の原因となります。
- 

お手入れの際は、エンジンを切り、コード類をすべてはずす…感電の原因となります。

日頃から安全運転をお心がけてください

このレーダー探知機は、取締りレーダー波の存在を前もってお知らせする受信機です。レーダー方式以外の赤外線や光電管式、ワイヤー式などのスピード測定装置には反応しません。また、電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車両通過計測機などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。「いつも鳴るから」と安心せずに注意してください。

※ 探知距離は、走行環境、測定条件などにより変わることがあります。

# 主な特長

## 1 S-EXTRA/スーパーエクストラ感度

衛星技術を応用した探知距離2倍(当社比)の超最高感度。Wスーパーヘテロダイン…スweepオシレータ式超高精度受信方式。[特許 第1720227号]  
X/Kツインバンド…Xバンド/Kバンドの2バンド対応。後方受信…後方からの取締りレーダー波も確実にキャッチ。

## 2 iDSP\*

統合的デジタル信号処理技術(iデジタル)により、超高精度識別を実現。

※integrated Digital Signal Processing Technologyの略です。

### ① ボイス識別

- Nシステム検知…「自動車ナンバー自動読み取り装置」(Nシステム)を検知すると、『ストロボをキャッチしました』と取締り機とは区別して、男性のボイス(男声)でお知らせ。[特許出願中]
- 新Hシステム識別…「Hシステムです」と通常波と区別して女性のボイス(女声)でお知らせ。
- ステルス識別…「ステルスです」と通常波と区別して女性のボイス(女声)でお知らせ。

### ② GPS対応

カーナビのモレ電波を受けにくい設計構造。

## 3 アラーム機能

- ① ボイスアラーム…取締り機までの距離に応じて、『ご注意ください』『危険です』とテンポアップボイス(女声)で警報。

② 3Dオケメロアラーム…♪「運命」「禿山の一夜」「カルメン」のオーケストラ演奏による3段階警報。

③ Wアラーム方式…音(ボイス/メロディ/電子音)&光(フラッシュミュート/シグナルメーター)のダブルで警報。

④ 接近テンポアップ…取締り機に近づくに従い、電子音だけでなく、ボイスもテンポアップ。

⑤ フラッシュミュート…取締りレーダー波を受信すると、ミュートボタンがフラッシュ(点滅)してお知らせ。

## 4 350.1MHz取締無線受信

① 会話受信…取締り現場無線の交信の内容が丸ごと聞ける。

② ボイスガイド…「チェックポイント。電波を受信しました。ご注意ください。」と女性のボイス(女声)でお知らせ。

③ 電子音アラーム…取締り現場無線の受信を電子音でお知らせ。

## 5 自動制御機能

① お知らせボイス…『ボイスにセットされました』や『スーパーエクストラモードにセットされました』など設定したモードを、ボイスでお知らせ。

② ASS\*/最適感度選択…走行状況に応じて、最適な受信感度を自動的に選択。[特許 第3051676号]  
※Auto Sensitivity Selectionの略です。

③ AAC-IV\*/不要警報カット…自動ドアなど、低速走行中や停車中のムダな警報を自動的にカット。  
※Auto Alarm Control IVの略です。

④ オートクワイアット…アラームの鳴り始めから、約30秒で自動的にボリュームダウン。

# ご使用にあたって

## 取り付けについて

- 取付説明書にしたがって、正しく取り付け(接続)を行ってください。
- ご自分で取り付けできない場合は、お買い上げの販売店、またはカーディーラーにご相談ください。

- 本機は、操作ユニットと受信ユニット間の伝送を車の電源ラインを使って行っています。本機の接続終了後、操作ユニットの電源ボタンを押した状態で車のエンジンを始動させると、確認音が鳴りません。(「パワー・オン・ビープ」10、27ページ)

確認音が鳴らない場合は、ユニット間の伝送が正常に行われていません。各コードの接続場所、とくにアースコードの接続位置を、もう1度確認してください。

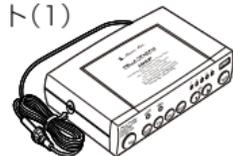
## 動作温度範囲について

- 本機は、-20℃~+85℃まで正常な動作が保証されています。夏、冬とも安心してご使用ください。

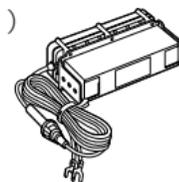
## セット内容

- 取り付け・ご使用前にお確かめください。

### ● 操作ユニット(1)



### ● 受信ユニット(1)



### ● 操作ユニット用ビスセット(1)

### ● 受信ユニット用ビスセット(1)

### ● マジックテープ(1)

### ● Nシステム・センサー(1)



### ● 吸着盤(1)

### ● 両面テープ(1)

### ● コードクリップセット

### ● 操作ユニット用ブラケット(1)



### ● 受信ユニット用ブラケット(1)



### ● Nシステム・センサー用ブラケット(1)



### ● ステー(3)



### ● タイラップセット(1)



### ● 取扱説明書(1)

### ● 保証書(1)

### ● 取付説明書(1)

### ● ご相談窓口一覧(1)

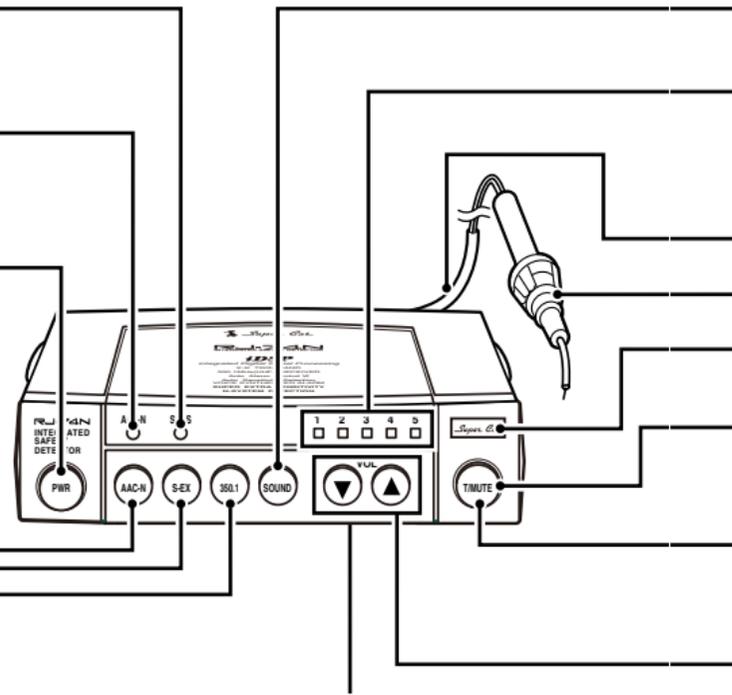
本機を取り付けてのスピード違反に関しては、弊社では一切の責任を負いかねます。日頃からの安全運転をお心掛けください。

# 各部の名称と働き

はじめに

## 操作ユニット

- 感度ランプ**  
受信感度の状態をランプの色で表示します。  
(11、16ページ)
- AAC-IVランプ**  
電源が入ると点灯し、警報の状態をランプの色で表示します。(13ページ)
- 電源ボタン [PWR]**  
電源の入/切ができます。(10ページ)
- AAC-IVボタン [AAC]**  
AAC-IVシステムの設定/解除ができます。(13ページ)
- 受信感度セレクトボタン[S-EX]**  
走行環境や条件に合わせて受信感度を選べます。  
(11ページ)
- 350.1ボタン [350.1]**  
350.1受信機能の設定/解除および動作モードの切り換えができます。(24ページ)  
350.1受信機能に設定中は点灯し、350.1MHzの電波を受信すると点滅します。(25ページ)

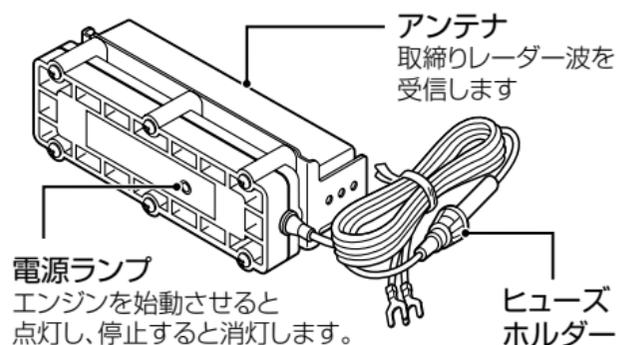


スピーカー

- 警報音セレクトボタン[SOUND]**  
警報音が切り換わります。(11ページ)
- シグナルメーター[1~5]**  
受信している取締りレーダー波の強さに応じて点灯数が左から右へ増えていき、右に達するとすべてが点滅します。(22ページ)
- 電源コード/350.1受信用アンテナ**
- ヒューズホルダー**
- スーパーキャットランプ**  
電源が入ると赤色に点灯します。(10ページ)
- テスト&ミュートボタン[T/MUTE]**  
警報機能の確認や、ミュート機能を使うときに押します。(10、27ページ)
- フラッシュミュートランプ**  
受信している取締りレーダー波の強さに応じて点滅速度が変化します。(22ページ)
- 音量ボタン[▼、▲]**  
警報音の音量調節ができます。(10ページ)

はじめに

## 受信ユニット

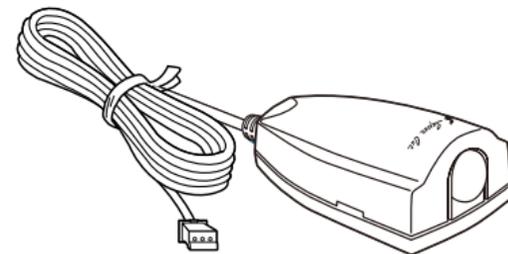


電源ランプ

エンジンを始動させると点灯し、停止すると消灯します。

ヒューズホルダー

## Nシステムセンサー



# 音量/警報音/受信感度を設定する

※設定は、必ず停車中にパーキングブレーキを確実にかけた状態で行ってください。

つづく

## 1 電源を入れる

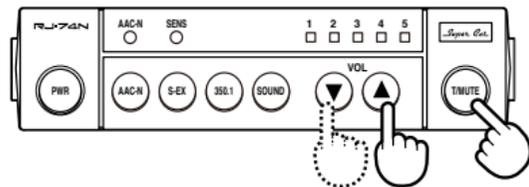
電源ボタンを押し、「入」の状態にして、車のエンジンを始動します。



ユニット間の伝送が正常に行われていると、確認音が数秒間鳴り(パワー・オン・ビーブ)、スーパーキャットランプとシグナルメーターの[1]が点灯します。(27ページ)

## 2 音量を調節する

テスト&ミュートボタンを押しながら、音量ボタンを押します。



▲：音量が大きくなります。

▼：音量が小さくなります。

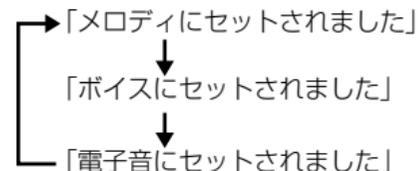
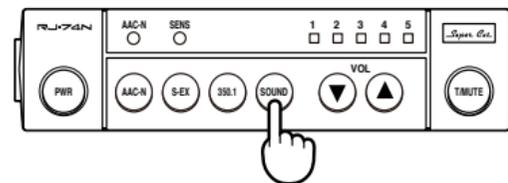
(音量が変化している間はAAC-IVランプが点滅し、シグナルメーターの点灯数が変化します)

テスト&ミュートボタンを押している間はテストモードとなり、警報音が鳴り続けます。

テスト&ミュートボタンを押す前から警報機能が働く場合は、近くで発信されている取締りレーダー波と同じ電波を受信しているためです。この状態でボタンを押すと、ミュート機能が働き、警報音が止まります。(27ページ)

## 3 警報音を選ぶ

警報音セレクトボタンで切り換えます。

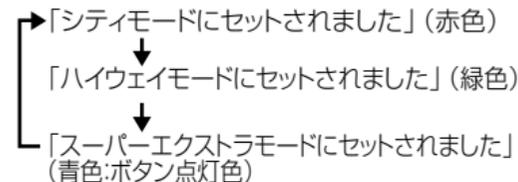
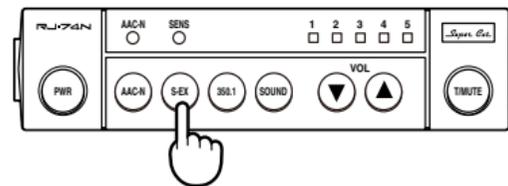


ボタンを押すたびに、ボイスで確認できます。

- 3Dオケメロアラーム  
「メロディ」にセットすると、オーケストラ演奏による①「運命」②「禿山の一夜」③「カルメン」の曲目が電波の強さに応じて、3段階に変わって警報します。
- ボイスアラーム  
「ボイス」にセットすると、「ご注意ください」「危険です」とボイスで警報します。

## 4 受信感度を選ぶ

お買い上げ時は、AAC-IVが「入」の状態(AAC-IVランプが赤色か緑色)になっています。AAC-IVランプがオレンジ色になるまで、AAC-IVボタンを押し続けてください。「ピポッ」と鳴り、「解除しました」とボイスでお知らせします。受信感度セレクトボタンで切り換えます。(マニュアルモード)



ボタンを押すたびに、ボイスと感度ランプの点灯色で確認できます。

### 受信感度について

受信感度が高いほど、遠くの電波を受信できますが、取締りレーダー波と同じほかの電波も受信してしまいます。走行環境や条件に合わせて、受信感度をお選びください。また、受信感度が高いほど、新Hシステムなどの受信には有効となります。

### ■マニュアルモード時の受信感度の切り換え

	受信感度	走行環境
↑	高い	スーパーエクストラモード 高速道路
		ハイウェイモード 郊外や高速道路
	低い	シティモード 市街地

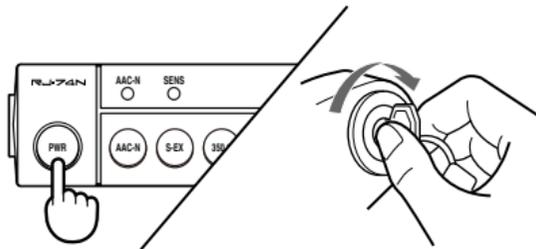
- AAC-IVに設定すると、受信感度セレクトボタンの位置にかかわらずASS機能が動き、走行時間の経過により受信感度がシティモードからハイウェイモード、スーパーエクストラモードへと変化します。(16ページ)
- AAC-IV設定時に受信感度セレクトボタンを押すと、スーパーエクストラモードになり、受信感度は変化しません。
- 本機はアクセサリ系の電源に接続しているため、電源ボタンを押した状態にしておけば、エンジンの始動・停止に連動して、電源の入/切ができます。通常は電源ボタンを押した状態で使用できます。(ただし、長期間使用しないときは、電源ボタンで電源を切ってください)

### AAC-IVのしくみと働き

オルタネーター(発電機)から出ているパルスノイズの周波数変化でエンジンの回転数を算出し、設定したエンジンの回転数以下で走行しているときや、停車中の警報音をキャンセルします。

- ご使用になる車種によっては、パルスノイズの情報が少なく、AAC-IVが正常に働かないことがあります。このようなときは、AAC-IVを解除してご使用ください。
- エンジンの回転数は、AAC-IVが法定速度以下で動くように設定してください。
- 通常、エアコンをお使いの場合は、エアコンを入れた状態で設定してください。
- 車のランプ類やワイパーなどを使ったときに、エンジンの回転数が変化する場合は、それらを使用した状態で設定し直してください。
- A/T車でAAC-IVを使用する場合は、下り坂などでアクセルを戻すと、スピードが出ていてもエンジンの回転数が設定値以下となって、警報音が鳴らないことがあります。
- 一部のA/T車では、アイドリング状態で、シフトがドライブ(D)のときは正常に動作するのに、ニュートラル(N)にするとAAC-IVランプが緑色に点灯することがあります。このようなときは、エンジンの回転数を少し高めに設定してください。

### 1 電源を入れる



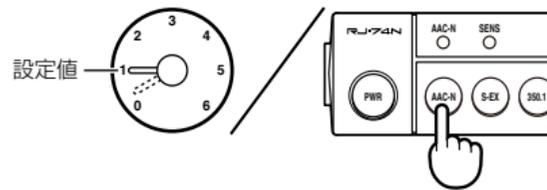
AAC-IVランプが赤色か緑色に点灯し、パワー・オン・ビーブが鳴ります。(27ページ)

お買い上げ時は、AAC-IVが「入」の状態になっていますが、AAC-IVランプがオレンジ色に点灯するときは、AAC-IVが解除されています。このようなときはAAC-IVランプが赤色か緑色に点灯するまで、AAC-IVボタンを押し続けてください。「ポポッ」と鳴り、「自動感度モードにセットされました」とボイスでお知らせします)

## AAC-IVシステムの使いかた

### 2 AAC-IVが働くエンジンの回転数を設定する

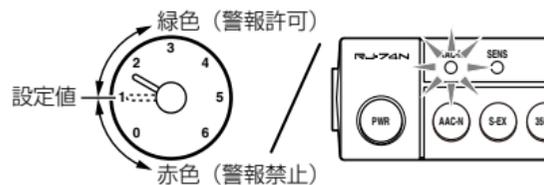
アクセルペダルを軽く踏み、希望の回転数でAAC-IVボタンを押します。(アイドリング状態より200~300回転高いところを目安に設定します)



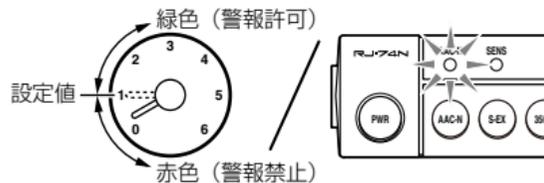
「ピポッ」と鳴り、「回転数がセットされました」とボイスでお知らせします。

### 3 動作を確認する

設定した回転数以下の状態では、AAC-IVランプは赤色ですが、設定した回転数以上にすると、数秒後にAAC-IVランプが赤色から緑色に変わります。



また、設定した回転数以下になると、数秒後に緑色から赤色に変わります。



### 回転数の設定を変更するには

AAC-IVランプが赤色か緑色に点灯中に、希望の回転数にして、AAC-IVボタンを押します。「ピポッ」と鳴り、「回転数がセットされました」とボイスでお知らせします。

### 解除するには

AAC-IVランプがオレンジ色に点灯するまで、AAC-IVボタンを押し続けます。AAC-IVランプが赤色または緑色に点灯中に、AAC-IVボタンを押し続けると、「ピポッ」と鳴り、「解除しました」とボイスでお知らせし、AAC-IVが解除されます。

点灯色	AAC-IV	レーダー波受信時の警報音
赤色	動作中	鳴らない (警報禁止状態)
緑色		鳴る (警報許可状態)
オレンジ色	解除	鳴る

※取締りレーダー波を受信しているときは、警報禁止状態でも、シグナルメーターは点灯します。

### AAC-IVのインテリジェント機能について

AAC-IVでは、マニュアル操作による設定値の他に、約3000~4000回転の間に仮想の設定値があらかじめ設定されています。それにより、車の走行状態を総合的に監視・制御します。

### インテリジェント機能

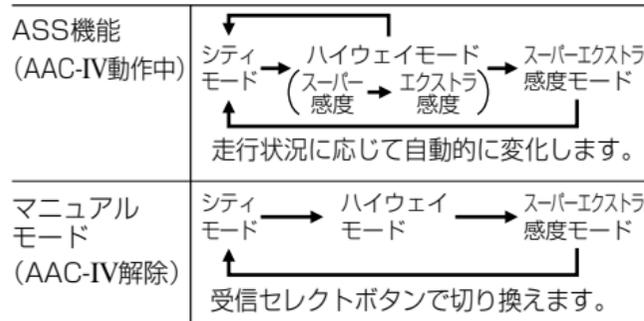
- 停止状態から発進したときの、警報を許可 (AAC-IVランプが緑色に点灯) するまでの時間を適正化する。
- 急加速時の警報を許可 (AAC-IVランプが緑色に点灯) するまでの時間を適正化する。

※仮想の設定値は、パルスノイズの周波数変化を利用しているため、ご使用になる車種により異なります。また車種によっては、仮想の設定値を認識できないことがあります。その場合は、マニュアル操作による設定値で動作します。

# ASS機能について

AAC-IVが働いているときは、設定したエンジンの回転数以上での走行時間やインテリジェント機能から、走行状況に応じて最適な受信感度を自動的に選択するASS(Auto Sensitivity Select)/最適感度選択機能を使うことができます。[特許 第3051676号]

## ■受信感度の変化



- ASS機能が働くのは、AAC-IV動作時だけです。AAC-IVを解除すると、ASS機能を使うことはできません。
- AAC-IV動作中は、マニュアルモードで選んだ受信感度は、無効となります。
- ASS機能により、ハイウェイモードからスーパーエクストラモードへ自動的に変化するとき、「ポーン」「スーパーエクストラモードにセットされました」とボイスでお知らせします。

## 感度ランプについて

感度ランプの点灯色で現在の受信感度を示します。

点灯色	受信感度	走行時間
赤色	シティモード	警報許可から2秒間
オレンジ色	ハイウェイモード	スーパー感度 警報許可から約20秒~60秒間
緑色	ハイウェイモード	エクストラ感度 警報許可から約60秒~2分間
青色	スーパーエクストラモード	それ以降

- 仮想の設定値をオーバーして走行する急加速状態を検出すると、規定の走行時間経過前でもハイウェイモードになります。
- AAC-IVシステムにより警報禁止状態になると、シティモードに戻ります。

# iDSPについて

つづく

本機はiDSP/統合的デジタル信号処理技術(integrated Digital Signal Processing Technology)により、ステルス型取締り機の「一瞬で強い電波」や、新Hシステムの「種類の異なる電波」に対しては、ただ単に警報するだけでなく、通常波と区別して『ステルスです』または『Hシステムです』と女性のボイス(女声)でお知らせします。[ステルス識別]/[新Hシステム識別]

さらに「自動車ナンバー自動読み取り装置」(Nシステム)を、取締り機とは区別して検知することに業界で初めて成功し、なおかつ、聞き間違いの無いように『ストロボをキャッチしました』と男声のボイス(男声)でお知らせします。[Nシステム検知:特許出願中]

- ※ iDSPを解除することはできません。
- ※ iDSPはステルス型の取締り機に対して完全対応というわけではありません。また、取締りには電波を使用しない光電管式などもあり、先頭を走行する際はくれぐれもご注意ください。
- ※ Nシステム検知はNシステム・センサーを接続しているときのみとなります。

使  
い  
か  
た

## ボイス識別

## ステルス識別について

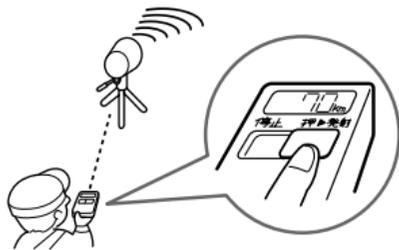
ステルス型取締り機は他の取締り機と同じ電波を使用していますが、事前に探知(受信)されないようにするため、待機中は電波を発射せず、必要なときに短時間強い電波を発射して速度の測定ができる狙い撃ちの取締り機です。従来機では、先頭を走行せずに2番手以降で走行していても、一瞬しか警報されません。

## &lt;ステルス波を受信したとき&gt;

- 専用のボイス(女声)でお知らせします。

受信	ピロピロ…(約2秒間) 「ステルスです ステルスです」
----	-----------------------------------

5秒以上受信が続くと、警報音セレクトスイッチで選んでいる通常の警報音に変わって警報します。



## ボイス識別

## 新Hシステム識別について

新Hシステムは電波を用いる自動速度取締り機(オービス)の一種ですが、他のオービスとは種類の異なる電波(周波数は同一)を使用しているため、従来機では探知(受信)しにくくなります。ただし、このシステムでは証拠の記録をする前に、電光掲示板で「速度オーバー」や「速度超過」などの警告がありますので、これらの警告を見かけたら注意してください。

## &lt;新Hシステム波を受信したとき&gt;

- はじめは選んでいる通常の警報音(電子音、メロディ、ボイス)が鳴りますが、識別すると専用のボイス(女声)でお知らせします。

受信	通常の警報音 (電子音、メロディ)
識別	ピロピロ 「Hシステムです」 ピロピロ 「Hシステムです」…… (受信している間、繰り返し警報します。)



## Nシステム検知について

「自動車ナンバー自動読み取り装置」通称『Nシステム』は新Hシステムなどに似ていますが、レーダー波を使用した取締り機ではないため、従来機では通過しても何も反応しませんでした。そのため、「新型の取締り機ではないか?」といった疑問や不安を持ちながら運転していた人も多かったようです。

本機は、このNシステムが発している特殊な信号を、識別および検知し、さらに、スピード違反の取締りとは区別して、『ストロボをキャッチしました』と男性のボイス(男声)でお知らせします。**[Nシステム検知:特許出願中]**

Nシステム・センサーを接続すると、自動的にNシステム検知はONの状態になります。

＜Nシステムを検知すると＞

- 『ストロボをキャッチしました』(2回)とボイス(男声)でお知らせします。



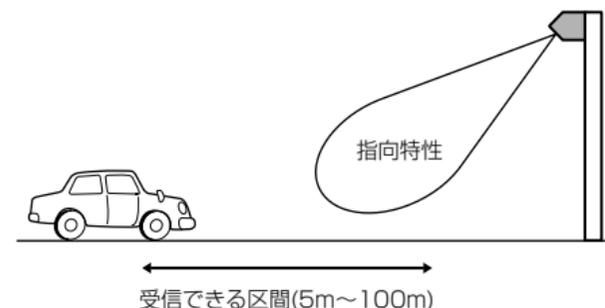
- ボイス識別後、1分以内にもう1度Nシステムを検知しても、ボイス(男声)でのお知らせはしません。
- ボイス識別中に、取締りレーダー波を受信すると、取締りの警報音が優先されます。

## ボイス識別

## Nシステム検知について(つづき)

- Nシステムは取締り機ではなく、その名のとおりに「自動車ナンバー自動読み取り装置」であり、その信号の指向角が鋭いため、信号を受信できる区間が5m~100mと短くなります。

そのため、走行中にNシステムを検知しても、ボイス(男声)のお知らせが、直前または通り過ぎてからのように感じる場合もあります。



- Nシステムは常時稼働しているとは限りません。稼働していない状態では信号を受信できませんので、Nシステムの検知はできません。

- Nシステムが発しているものと同種の信号を使用している次の機器については、誤検知する場合があります。

- ・オービスのカメラ
- ・高速道路入り口のナンバー読み取り装置
- ・駐車場入り口のナンバー読み取り装置
- ・Tシステム(旅行時間予告システム)

- 次のようなとき、ごくまれに誤検知する場合があります。

- ・液晶カメラやカーナビの画面に、本機を直接向けたとき
- ・朝日または夕日(地平線または水平線に近い状態)に向かって走行しているとき
- ・バイクなどのイグニッションノイズ

# 取締りレーダー波受信時の警報について

取締り機(電波の種類)	シグナルメーター	フラッシュミュートランプ	警報音															
通常の取締り機 (常時発射されている連続波)	左から右に点灯数が増えます。 <table style="display: inline-table; border: none;"> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>→</td><td>→</td><td>→</td><td>→</td><td>→</td> </tr> </table>	1	2	3	4	5	<input type="checkbox"/>	→	→	→	→	→	 <p style="text-align: center;">点滅から点灯に変化します。</p>	選択した警報音(電子音、メロディ、ボイス)が鳴ります。電子音は断続音から連続音に変化し、ボイスはテンポが早くなります。				
1	2	3	4	5														
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>														
→	→	→	→	→														
ステルス型取締り機 (必要なときのみ、短時間発射される狙い撃ち的な連続波)	いきなり4つ以上点灯します。 <table style="display: inline-table; border: none;"> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>⇒</td><td>⇒</td> </tr> </table>	1	2	3	4	5	<input type="checkbox"/>				⇒	⇒	専用のボイス(女声)でお知らせします。 『ステルスです…』					
1	2	3	4	5														
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>														
			⇒	⇒														
新Hシステム<新型オービス> (常時発射されている、種類の異なる電波)	段階的に点灯数が増え、3つ以上で新Hシステムを識別します。 <table style="display: inline-table; border: none;"> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>→</td><td>→</td><td>⇒</td><td>⇒</td><td>⇒</td> </tr> </table>	1	2	3	4	5	<input type="checkbox"/>	→	→	⇒	⇒	⇒	選択した警報音で鳴りはじめ、新Hシステムを識別すると専用のボイス(女声)でお知らせします。 『Hシステムです…』					
1	2	3	4	5														
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>														
→	→	⇒	⇒	⇒														

## 接近テンポアップシステム

取締り機に近づくにしたい、選択した警報音がテンポアップします。電子音だけでなく、ボイスもテンポアップします。  
 ※350.1アラーム、ボイス識別は除く。

## Wアラーム方式

音(電子音、メロディ、ボイス)と光(フラッシュミュートランプ/シグナルメーター)のダブルで警報します。

- シグナルメーターの点灯が右端に達すると、すべてが点滅します。
- メロディアラームを選んでいるときでも、ステルス型取締り機や新Hシステムの電波を受信すると専用のボイス(女声)でお知らせしません。
- AAC-IVの働きにより警報禁止状態のときでも、ステルス波を受信したときは専用のボイス(女声)でお知らせします。
- ボイス識別は、ミュート機能により、一時的に消すこともできます。
- 通常の電波を受信した場合でも、周囲の状況などにより、ボイス(女声)でお知らせすることがあります。

### 警告



警報機が鳴ったときに、あわててブレーキをかけないでください。急ブレーキは重大事故の原因となります。

# 350.1 受信機能の使いかた

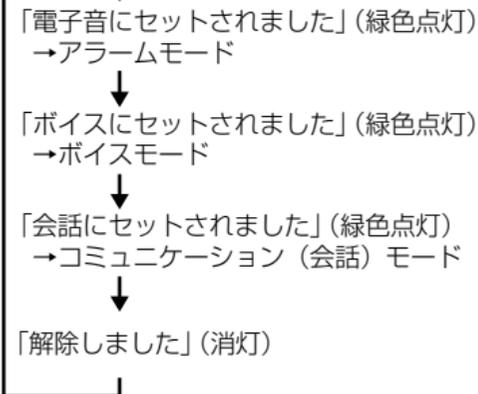
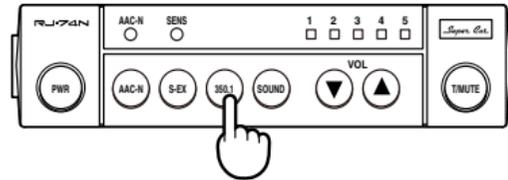
スピード違反の取締りや、シートベルトの着用義務違反の取締り現場では、350.1MHzの電波を用いた無線で連絡が行われることがあります。350.1受信機能は、このような取締りに威力を発揮します。設定すると、この連絡用の電波を受信したとき、350.1ランプが点滅し、その交信内容を聞くことや、警報としてアラームを鳴らすことができます。(取締り現場での連絡方法には、350.1MHzの電波を用いた無線の他に、有線方式もあります)

※ 350.1受信機能のアンテナは、操作ユニットの電源コードと一緒に束ねられています。

連絡のための無線交信は数秒で終わることが多いため、コミュニケーション(会話)モードで受信しても交信内容を聞き取ることは難しくなります。通常はアラームモードまたは、ボイスモードに設定されることをお勧めします。

## 1 動作モードを選ぶ

350.1ボタンで切り換えます。

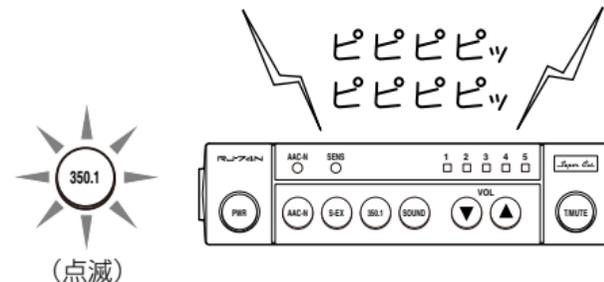


ボタンを押すたびに、ボイスで確認できます。

## 350.1MHzの電波を受信すると

<アラームモードのとき>

● 350.1ランプが赤色に点滅し、電子音アラームが鳴ります。



- 350.1MHzの電波を一瞬でも受信すると、アラームが約5秒間鳴ります。
- アラームはミュート機能で消すことができます。また約15秒以上受信が続くと、自動的にミュート機能が働きます。
- アラームが鳴ったあと、1分以内にもう1度350.1MHzの電波を受信してもアラームは鳴りません。
- アラームが鳴っているときに取締りレーダー波を受信すると、取締りレーダー波受信時の警報音が優先されます。

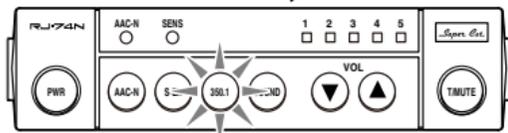
## 350.1受信機能の使いかた

### 350.1MHzの電波を受信すると(つづき)

<ボイスモードのとき>

- 350.1ランプが赤色に点滅し、ボイス(女声)でお知らせします。

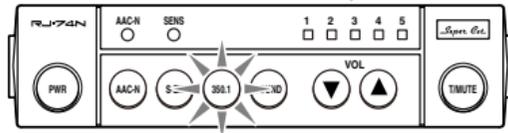
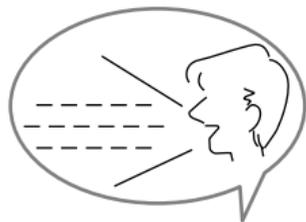
ピピピピッ  
チェックポイント  
電波を受信しました  
ご注意ください



- 350.1MHzの電波を一瞬でも受信すると、アラームが1フレーズ鳴ります。また、警報中に再度電波を受信すると、もう1度、1フレーズの警報をします。
- アラームはミュート機能で消すことができます。受信が続いたときは、2フレーズの警報後、自動的にミュート機能が働きます。
- アラームが鳴ったあと、1分以内にもう1度350.1MHzの電波を受信してもアラームは鳴りません。
- アラームが鳴っているときに取締りレーダー波を受信すると、取締りレーダー波の警報音が優先されます。

<コミュニケーション(会話)モードのとき>

- 350.1ランプが赤色に点滅し、交信内容が聞けます。



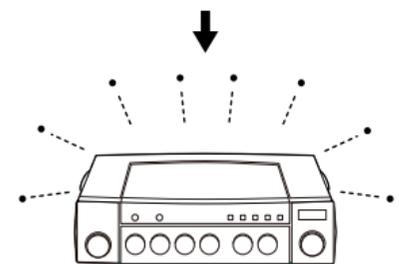
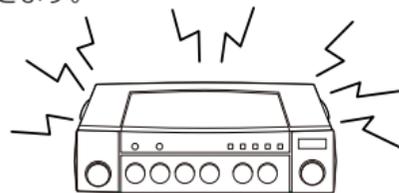
- 350.1MHzの電波を受信しているときに取締りレーダー波を受信すると、両方の音が重なって聞こえます。
- 交信は数秒間で終わることが多いため、交信内容を完全に聞き取ることは難しくなります。

## 便利な機能について

### ミュート機能

- 取締りレーダー波の発信源の確認ができたなら

警報中にテスト&ミュートボタンを押すと、受信中の電波がなくなるまで、警報音を一時的に消すことができます。



### パワー・オン・ビープ

本機の電源ボタンを押した状態にしてエンジンをかけると、確認音「ピロピロッ」とともにスーパーキャットランプとシグナルメーターの[1]が点灯(10ページ)し、本機が正常に動作していることをお知らせします。また350.1受信機能が設定されているときは、さらに「ピピピピッ」と鳴ります。



### オートクワイアット機能

警報音が約30秒間以上続くと、自動的に音量が小さくなります。

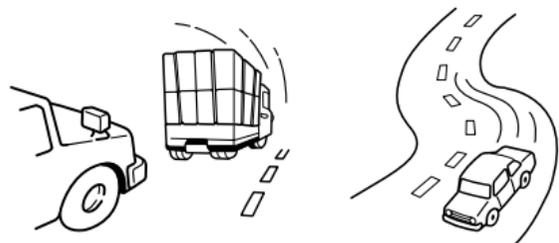
### 後方受信

後方からの取締りレーダー波も確実に受信することができます。

# 受信しにくい場合

電波の発射方法や周囲の環境、条件などにより、取締りレーダー波を受信しにくいことがあります。

- 前に走行している車(とくに大型車)がある場合や、コーナー、坂道では、電波が遮断され、探知距離が短くなる場合があります。スピードの出やすい下り坂では、とくにご注意ください。
- 対象の車が近くに来るまで、電波を発射しない狙い撃ち的な取締りができるステルス型のスピード測定装置があります。



〔前に走行中の車がある場合〕

〔コーナー〕



〔下り坂〕

電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車輛通過計測機などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。『いつも鳴るから』と安心せずに注意してください。

# 取締りのミニ知識

つづく

本機と、取締りの方法や種類をよくつかんで、上手にご使用ください。制限速度を守り、安全運転を心がけることが大切です。

## スピード違反の取締り方法

大きく分けて3つの方法があります。

### 1. 追走して測定する方法 (追尾方式)

指針を固定できるスピードメーターを搭載している白バイやパトカーで、対象の車を追走して速度を測ります。

※本機は取締りレーダー波を発射しているものについては後方受信しますが、この追尾方式は電波を出しておりませんので、受信および警報することはできません。

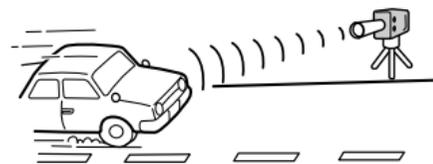
### 2. 距離と時間で算出する方法 (光電管式、ループコイル式)

一定区間を通過するのにかかる時間から速度を算出します。測定区間の始めと終わりに設置するセンサーには、赤外線や埋め込みの磁気スイッチなどが使われています。

※これらの方式は電波を出しておりませんので、受信および警報することはできません。

### 3. 電波を使って算出する方法 (レーダー方式)

電波を対象の車に向けて発射し、その反射波の周波数変化(ドップラー効果)で速度を算出します。



現在、スピード違反の取締りには、この方法が多く採用されています。この方法は、歴史も古く、種類、台数が多いことから、今後も取締りの主流となると思われます。

## 取締りレーダー波について

取締りレーダー波は、発射するときの角度や装置の種類によって性質が異なります。

### 定置式

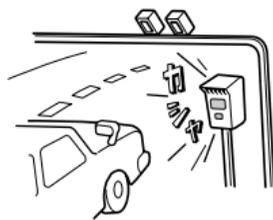
人が測定装置を道路際に設置して行います。

取締りレーダー波は、直進性が強い  
ため、発射角度が浅いほど、探知しやすくなります。



### 自動速度取締り機(オービスⅢ)

速度の測定と証拠写真の撮影を自動的に行います。



### 移動式

測定装置をパトカーに搭載して、移動しながら測定を行います。

### Kバンドについて

Kバンドは、米国ですでに使用されている取締りレーダー波の周波数で、日本国内でも使用される可能性があります。本機は、現在国内で使用されているXバンドに加え、Kバンドも受信できるX・Kツインバンド対応です。

本機はレーダー方式のスピード測定装置に対応します。

※探知距離は、走行環境、測定条件などにより変わることがあります。

# 故障かな?と思ったら

つづく

修理をご依頼になる前に、もう1度次のことをご確認ください。それでも異常や故障と思われるときは、お買い上げの販売店、または弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照願います)にご相談ください。

症状	チェック項目
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ユニットのコードの接続を間違えていませんか。特にアースコードの接続位置を確認してください。(取付説明書参照)</li> <li>各ユニットの電源入力コード(赤)についているヒューズホルダー内のヒューズが切れていませんか。切れていた場合は、同一定格の新しいヒューズと交換してください。</li> </ul>
エンジンを止めて、イグニッションキーを抜いても、電源が切れない	<ul style="list-style-type: none"> <li>操作ユニットの電源入力コード(赤)がエンジンの始動・停止と連動しているアクセサリ(ACC)系の電源に接続されていますか。(取付説明書参照)</li> </ul>

症状	チェック項目
反応(警報)しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>電源が入っていますか。操作ユニットのAAC-IVランプと受信ユニットの電源ランプの点灯を確認してください。</li> <li>操作ユニットと受信ユニット間の伝送が正常に行われていますか。(10、21ページ)</li> <li>警報機能が正しく働きますか。テスト&amp;ミュートボタンを押して確認してください。(10ページ)</li> <li>AAC-IVランプが緑色で点灯していましたか。アクセルペダルを軽く踏み、エンジンの回転数をあげても赤色で点灯している場合は、AAC-IVの働くエンジンの回転数を適切に設定し直してください。(13ページ)</li> <li>取締りレーダー波が発射されていましたか。取締り準備中あるいは終了後などで、スピード測定装置から取締りレーダー波が発射されていないことがあります。(特にオービスIVではよくあります)</li> <li>取締りが「レーダー方式」で行われていましたか。</li> </ul>
取締りもしていないのに、警報機能が働く	<ul style="list-style-type: none"> <li>取締りレーダー波と同じ電波が他にも使用されています。それらの電波を受信すると、警報機能が働くことがあります。故障ではありませんのでご了承ください。            &lt;取締りレーダー波と同じ電波を使用している主な機器&gt;           <ul style="list-style-type: none"> <li>電波式の自動ドア、防犯センサー</li> <li>信号機の近くに設置されている車両通過計測機</li> <li>NTTのマイクロウェーブ通信回線の一部</li> <li>気象用レーダー、航空レーダーの一部</li> <li>他のレーダー探知機の一部</li> </ul> </li> </ul>

症状	チェック項目
AAC-IVが正常に働かない	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しく設定されていますか。AAC-IVの動作を確認してください。(13ページ)</li> <li>A/T車でお使いの場合、アイドル状態、シフトポジションがドライブ(D)のときは正常に動作(AAC-IVランプが赤色に点灯)するが、ニュートラル(N)にすると、AAC-IVランプが緑色に点灯してしまう車種がまれにあります。このようなときは、エンジンの回転数を少し高めに設定し直してください。</li> </ul>
取締り現場なのに、350.1受信機能が正常に働かない	<ul style="list-style-type: none"> <li>350.1受信機能を設定していましたか。</li> <li>取締り現場での連絡が無線方式で行われていましたか。連絡には350.1MHzの電波を使った無線方式の他に、有線方式の場合もあります。</li> <li>連絡のための無線交信は、必要なときに短時間しか行いません。そのため、コミュニケーションモードで交信内容を完全に聞き取ることは難しくなります。また、アラームモードやボイスモードでは、1度アラームが鳴ったあと、1分以内にもう1度350.1MHzの電波を受信してもアラームは鳴りません。</li> </ul>
取締り現場付近以外の場所で350.1受信機能が働く	<ul style="list-style-type: none"> <li>放送局などの強い電波の影響や周囲の状況により、受信状態になることがあります。</li> </ul>
警報の途中で音が小さくなる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>警報が30秒間以上続くと、警報を抑えるために、アラームが小さくなります。(27ページ)</li> </ul>

症状	チェック項目
GPS（カーナビゲーションシステム）の電源を入ると、警報機能が働く	<ul style="list-style-type: none"> <li>GPSアンテナの設置場所を変えてください。それでも警報機能が働くとときは、弊社営業所・サービス部にご相談ください。</li> </ul>
Nシステムを検知できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>Nシステム・センサーは接続されていますか。</li> <li>Nシステム・センサーがサンバイザーやフロントガラスのスモークなどで、感知しにくくなっていませんか。取り付け場所を変更してみてください。</li> <li>Nシステムは稼働していましたか。稼働していない場合は、検知できません。</li> <li>一部の車種に採用されている断熱ガラスにより、検知しにくい場合があります。</li> </ul>

## アフターサービスについて

- 保証書(別に添付してあります)**  
保証書は、必ず「販売店・お買い上げ年月日」をご確認のうえ、保証内容をよくお読みになって、大切に保管してください。
- 保証期間**  
お買い上げの日から1年間です。
- 対象部分**  
機器本体(消耗品を除く)
- 修理をご依頼される時**  
「故障かな?と思ったら」で確認しても、なお異常があると思われるときは、使用車名(車種)機種名(品番)、氏名、住所、電話番号、購入年月日、保証書の有無と故障状況をご連絡ください。  
  - 保証期間中のとき  
保証書裏面の「故障内容記入欄」にご記入いただき、お買い上げの販売店まで保証書とともに、機器本体をご持参ください。保証書の内容にしたがって修理いたします。
  - 保証期間が過ぎているとき  
まず、お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理いたします。
- アフターサービス等についてご不明の点**  
お買い上げ販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照願います)にお問い合わせください。

## 仕様

電源電圧	: 12V(マイナスアース車専用)
消費電流	: 操作ユニット …待機時110mA以下、最大230mA以下 受信ユニット …待機時85mA以下、最大150mA以下、エンジン停止時5mA以下
受信方式	: スイープオシレーター式ダブルスーパーヘテロダイン方式
受信周波数	: Xバンド、Kバンド
動作温度範囲	: -20℃~+85℃ (350.1MHz受信部…-10℃~+60℃)
本体外形寸法	: 操作ユニット …85(W)×20(H)×54(D)mm 受信ユニット …94(W)×37(H)×44(D)mm Nシステム・センサー …26(W)×19(H)×45(D)mm
本体重量	: 操作ユニット…85g 受信ユニット…175g Nシステム・センサー…41g

※本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

**RJ-74N**

**ユピテル工業株式会社**

〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33

6SS0558